

Furniture Maintenance Guide

このメンテナンスガイドをよくお読みいただき、末永くご愛用ください。

置きかた

- ◇ 家具は湿気を嫌います。湿気が多い場所では、家具が変形したりカビが発生する場合がありますので、高温・多湿な場所には置かないでください。
- ◇ 壁の近くは湿気が溜まりやすいので、壁から少し離れた（10cm位が望ましい）場所に置いてください。特に新築の家は、壁に水分を含んでいますのでご注意ください。
- ◇ 家具は、水平で十分な強度のある床に置いてください。畳の上や、凹凸のある床の上に置く場合には、敷き板を敷いてから家具を置いてください。
- ◇ 直射日光が当たる場所や、冷暖房器具の近くに家具を置かないでください。変色・変形する場合があります。特に無垢材は、温度や湿度の変化が大きい場所では、そりや割れが発生しやすいのでご注意ください。
- ◇ 地震などで家具が転倒すると大変危険ですので、市販されている家具転倒防止器具などでしっかりと固定してください。
- ◇ ストーブやガスコンロなどの火気を、家具に近づけないでください。引火して火災の原因になる場合があります。
- ◇ 家具を移動する時は、収納品や取り外せる棚などをすべて取り出し、二人以上で持ち上げて慎重に運んでください。引きずって移動しますと、床を傷つけたり家具を破損する場合があります。

お手入れ

- ◇ 毎日のお手入れは、やわらかい乾いた布で軽く拭いてください。汚れがひどい場合には、材質・塗装の性質に合わせた次の方
法でお手入れしてください。
- ◇ **ウレタン塗装された木部**
中性洗剤をぬるま湯で500倍以上に薄めた液を柔らかい布に浸し、固くしぼってから汚れを拭いた後、きれいな温水に浸した布で洗剤分を拭き取り、最後にやわらかい乾いた布で水分を拭き取ってください。
- ◇ **オイル塗装された木部**
できるだけカラ拭きだけで汚れを落としてください。油污れがひどい場合は、[ウレタン塗装された木部]と同じ方法でお手入れしてください。仕上げに市販のメンテナンスオイルを使用すると、より美しさが長持ちします。
- ◇ **ガラス部**
市販のガラス用洗剤などをご利用ください。表面がざらついたガラスは、歯ブラシなどを使うと汚れが落としやすくなります。お手入れ中にガラスを破損しないようにご注意ください。
- ◇ **布張り/レザー張り部**
中性洗剤をぬるま湯で500倍以上に薄めた液を柔らかい布に浸し、軽くしぼってから叩くように汚れを落とした後、きれいな温水に浸した布で洗剤分を拭き取り、最後にやわらかい乾いた布で水分を拭き取ってください。その後、ゆっくりと陰干ししてください。
- ◇ **金属部**
薄めた中性洗剤で汚れを拭き取ったら、しっかりと水拭きして洗剤分を取り除き、最後にカラ拭きで水分を完全に拭き取ってください。扉の蝶番など可動部分には、市販の潤滑油を定期的に薄く塗ってください。
- ◇ 部品を固定しているネジは、時間が経つと少しずつ緩んでくることもありますので、定期的に点検してネジを締め直してください。

ご注意

- ◇ 家具の上に立ったり、踏み台代わりに使ったり、引き出しや引き手にぶら下がったり登ったりしないでください。転倒してケガや破損の原因になる場合があります。
- ◇ イスやソファは、正しく座った場合に安定するように作られていますので、座面の上に立ったり、背もたれに座ったり、とんだり、不安定な姿勢で掛けたりしないでください。転倒してケガや破損の原因になる場合があります。
- ◇ 引き出しや扉を同時にいくつも開けないでください。家具が前に倒れる場合があります。
- ◇ 引き出しを完全に引き出すと、引き出しが家具本体から抜け落ちる場合がありますのでご注意ください。
- ◇ 扉の開閉や、引き出しの出し入れなど、可動部分の操作の際には、指や手を挟まないようご注意ください。また、可動部分を乱暴に操作すると、家具（特にガラス部分）が破損する場合があります。
- ◇ メラミン樹脂加工などで耐熱処理された部分以外には、加熱した鍋などを置かないでください。また、新聞や雑誌などを鍋敷き代わりに使うと、インクが溶けて家具に付着する場合があります。
- ◇ 濡れた食器や布巾など、水分を含むものを載せたまま長時間放置しないでください。家具が変色したりシミができる場合があります。特にオイル塗装製品はシミになりやすいのでご注意ください。
- ◇ セロハンテープなどのビニール製品を家具に貼り付けたり、長時間のせたままにしないでください。外装が破損したり、塗装膜が溶ける場合があります。
- ◇ 陶器・磁器などで底がざらついたものを家具の上で引きずらないでください。